阪南市埋蔵文化財報告 33

向山遺跡発掘調査報告書

2004年

阪南市教育委員会

はしがき

国道26号線（第二阪和道）は当市の暮らしや産業を支えるために、なくてはならない大切な道です。しかし、新しい建造物の多くは地下に眠る文化財を破壊しなければ築けないのが現状です。

国道26号線の延伸工事に先立つ発掘調査では、多くの遺跡が破壊されたのと引き換えに新しい発見もあり、市域の歴史も塗り替えられました。

当教育委員会では事前の発掘調査で破壊されていく遺跡を、せめて記録として子孫に残すのも大切な責務と心得、埋蔵文化財行政を行っております。

遺跡は一度壊してしまうと二度と甦らないものです。何百、何千年の間地下に眠っていた歴史を破壊する権利は、現代の私たちにあるはずがありません。

今後も私たちは子々孫々まで誇れるような埋蔵文化財行政を行っていくよう努力する所存です。

今回の調査に当たり、ご指導、ご協力いただきました関係者に対し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

2004年３月

阪南市教育委員会
教育長　川村一郎

例　　言

1．本書は阪南市自然田所在の向山遺跡の発掘調査概要報告書である。
2．本調査は国土交通省近畿地方建設局浪速国道工事事務所の委託を受け、阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課が行った。
3．調査は生涯学習部生涯学習推進課三好義三、田中早苗、上野　仁が担当して実施した。
4．本書内に示した標高は、T．P．であり、方位は既製の地形図などを使用したものを除いて磁北である。
5．調査に当たっては土地所有者など、関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
6．本書の執筆・編集は田中早苗が行った。また、発掘調査、整理作業には以下の協力を得た。
7．本調査における記録は実測図、写真、カラースライドなどに保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

（調査従事者）
遠山法城、根無吉隆、中寺邦利、頭師康一郎、大槻隆雄、蓑林達也、本多芳之、猪野壽夫、南竹千代、和田旬世、井上祥子、井上　進、島田万帆、中寺幸子、丹羽明子、広島良子

目　　次

第１章　調査にいたる経過　1
第２章　歴史的環境
　第１節　周辺の歴史的環境　2
　第２節　向山遺跡の歴史的環境　4
第３章　調査の成果
　第１節　基本層序　6
　第２節　遺構・遺物　9
第４章　まとめ　１３

第１章　調査にいたる経過

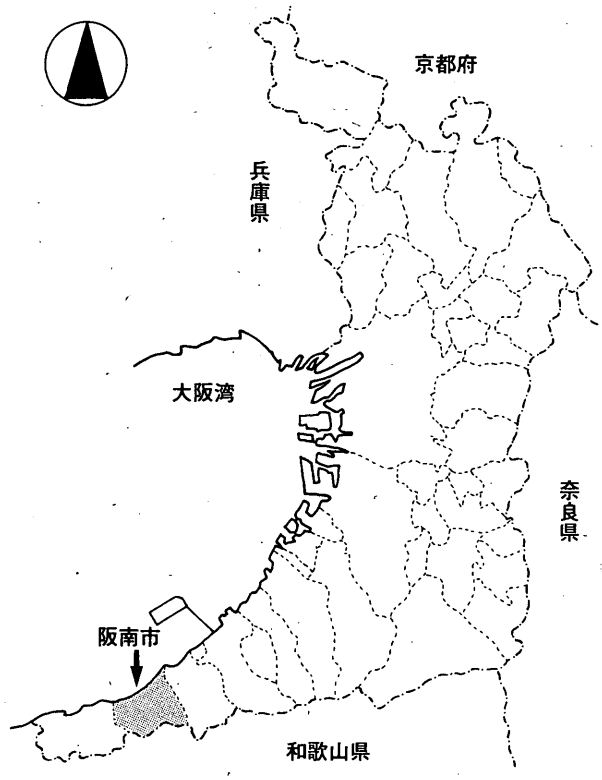
阪南市の幹線道路である国道26号線の阪南市自然田から岬町淡輪間は、1988(昭和63)年に計画、事業化された。15年後の2003(平成15)年に阪南市自然田と箱作間の4.5kmが部分開通し、阪南市域における慢性的な停滞はようやく解消された。

しかし、その地下には久保田遺跡、向出遺跡、向山遺跡、亀川遺跡、井関遺跡などが存在し、工事に先行して1996(平成８)年より(財)大阪府文化財調査研究センターによる発掘調査が行われ、多くの成果を得た。

これら本線の調査は面積も広く、華々しく新聞紙面を飾ったものもあったが、それに伴う付属工事は面積も狭く、忘れられがちである。

今回は上記本線部によって丘陵を削り取ったため、両側に残った耕作地に乗り入れる進入路が計画され、それに先立つ調査である。国土交通省近畿地方建設局浪速国道工事事務所と何度も協議を重ね、調査するに至った。

現地は1998(平成10)年に（財）大阪府文化財調査研究センターによって行われた、多くの遺構、遺物を検出した調査区に隣接するため、試掘調査は実施せず、工事による削平部分の発掘調査を行った。



第１図　阪南市位置図

第２章　歴史的環境

第１節　周辺の歴史的環境

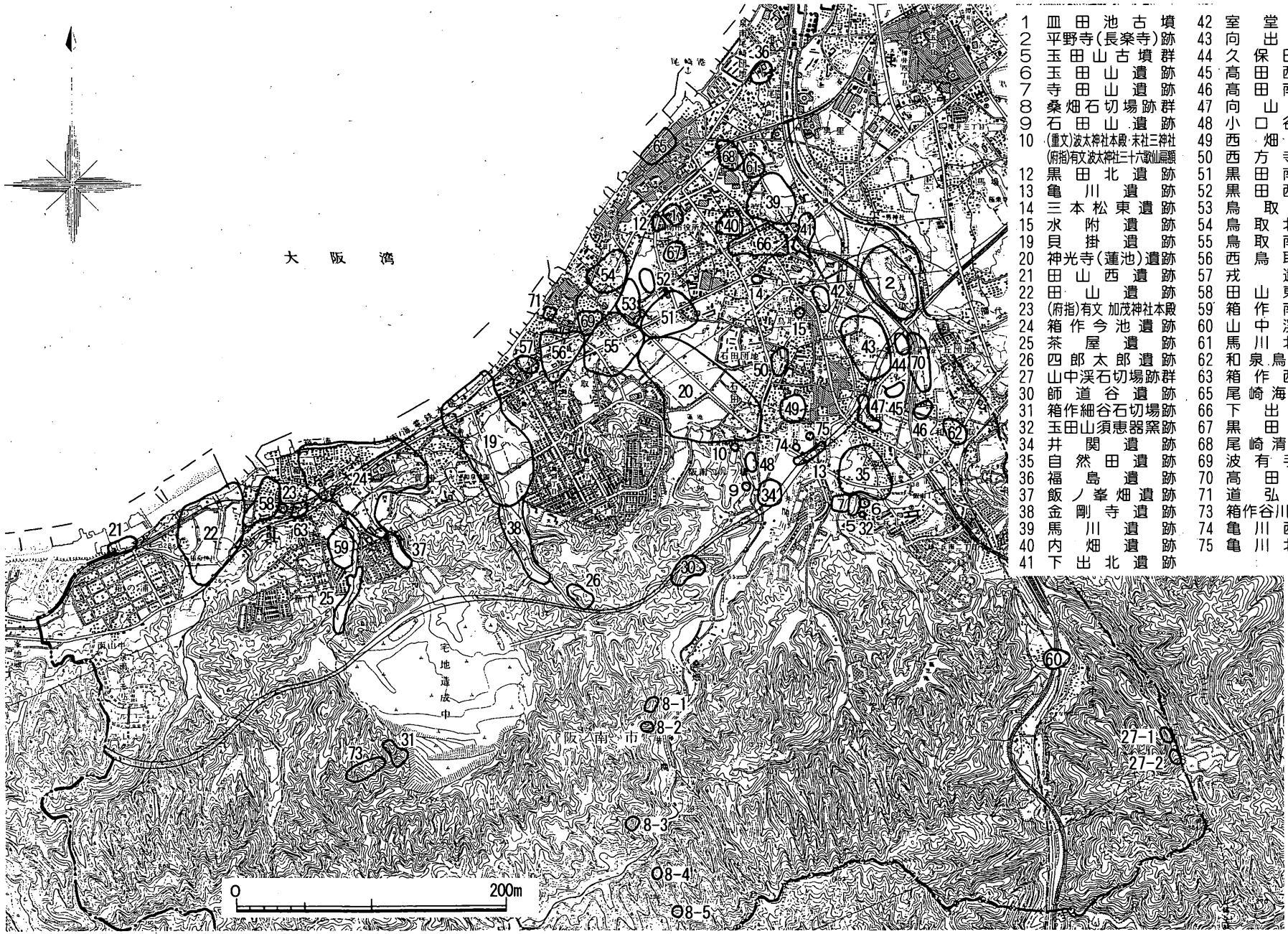
向山遺跡は阪南市の東端部を流れる男里川の支流、菟砥川と山中川に挟まれた狭小な段丘面上に拡がる遺跡である。

同じく菟砥川と山中川の下流で、向山遺跡の北部台地上には縄文時代の墓地や弥生時代後期から古墳時代初頭の集落が発見された向出遺跡(43)が在り、南部の平地には自然田遺跡(35)が拡がる。自然田遺跡は縄文時代の石器が採取されており、十数回の小規模な調査は行われているものの、詳しい遺跡の性格はわかっていない。

その南部の玉田山丘陵には、山頂付近に玉田山遺跡(6)が、西側山麓には古墳時代終末期の横穴式石室２基から構成される玉田山古墳群(33)が在る。

玉田山遺跡は江戸時代頃に五十瓊敷入彦命の墓である宇度墓伝説があるものの、縄文時代の石器が採取されていたのみである。1980(昭和57)年、丘陵頂上の公園整備事業に伴う発掘調査では箱式石棺を検出した他、多くの調査成果を得たが、宇度墓と関連するものは発見されなかった。

寺田山遺跡(7)は東部に玉田山古墳群を望む段丘上に存在し、古墳を営む集団の住居の存在が期待されていた。当教育委員会では1999(平成11)年度に約4000㎡の調査を行った。その結果、包含層のほとんどを除去されていたが、弥生時代後期の竪穴住居、土坑墓などが検出され、土器とともにサヌカイト製石器と大量のフレークが出土した。



1 皿田池古墳
2 平野寺(長楽寺)跡
5 玉田山古墳群
6 玉田山遺跡
7 寺田山遺跡
8 桑畑石切場跡群
9 石田山遺跡
10 (重文)波太神社本殿・末社三神社
(府指)有文 波太神社三十六歌仙扁額
12 黒田北遺跡
13 亀川遺跡
14 三本松東遺跡
15 水附遺跡
19 貝掛遺跡
20 神光寺(蓮池)遺跡
21 田山西遺跡
22 田山遺跡
23 (府指)有文 加茂神社本殿
24 箱作今池遺跡
25 茶屋遺跡
26 四郎太郎遺跡
27 山中渓石切場跡群
30 師道谷遺跡
31 箱作細谷石切場跡
32 玉田山須恵器窯跡
34 井関遺跡
35 自然田遺跡
36 福島遺跡
37 飯ノ峯畑遺跡
38 金剛寺遺跡
39 馬川遺跡
40 内畑遺跡
41 下出北遺跡
42 室堂遺跡
43 向出遺跡
44 久保田遺跡
45 高田西遺跡
46 高田南遺跡
47 向山遺跡
48 小口谷遺跡
49 西畑遺跡
50 西方寺遺跡
51 黒田南遺跡
52 黒田西遺跡
53 鳥取遺跡
54 鳥取北遺跡
55 鳥取南遺跡
56 西鳥取遺跡
57 戎遺跡
58 田山東遺跡
59 箱作南遺跡
60 山中渓遺跡
61 馬川北遺跡
62 和泉鳥取遺跡
63 箱作西遺跡
65 尾崎海岸遺跡
66 下出遺跡
67 黒田遺跡
68 尾崎清水遺跡
69 波有手遺跡
70 高田遺跡
71 道弘寺跡
73 箱作谷川石切場跡
74 亀川西遺跡
75 亀川北遺跡

第2図　阪南市埋蔵文化財分布図

第２節　向山遺跡の歴史的環境

向山遺跡は1987(昭和62)年度に阪南市教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査で発見された。

過去の調査は1992(平成４)年に阪南市教育委員会が行ったものと（92-1区）、1998（平成10）年に大阪府文化財調査研究センターが行った２件のみである。

阪南市教育委員会の調査区は遺跡の東南部に当たり、５ヶ所のトレンチを設定して調査を行った。遺構は検出されず、近世期の包含層（厚さ10～20cm）から土師器、陶器が若干出土したのみであった。

大阪府文化財調査研究センターが行った調査は、国道26号線（第二阪和道）延伸の道路部分約4000㎡が対象であった。遺跡の西部を南北に縦断する状態で調査されたため、大きな成果があった。弥生時代後期から古墳時代中期にかけての竪穴住居が検出され、集落を形成していたようである。古墳時代後期の小石室も１基検出されている。平安時代から中世期前半にかけては掘立柱の建物群が形成されていたものの、中世後半以降は耕作地となったようである。

参考文献

阪南町史編さん会　1983　『阪南町史』上巻

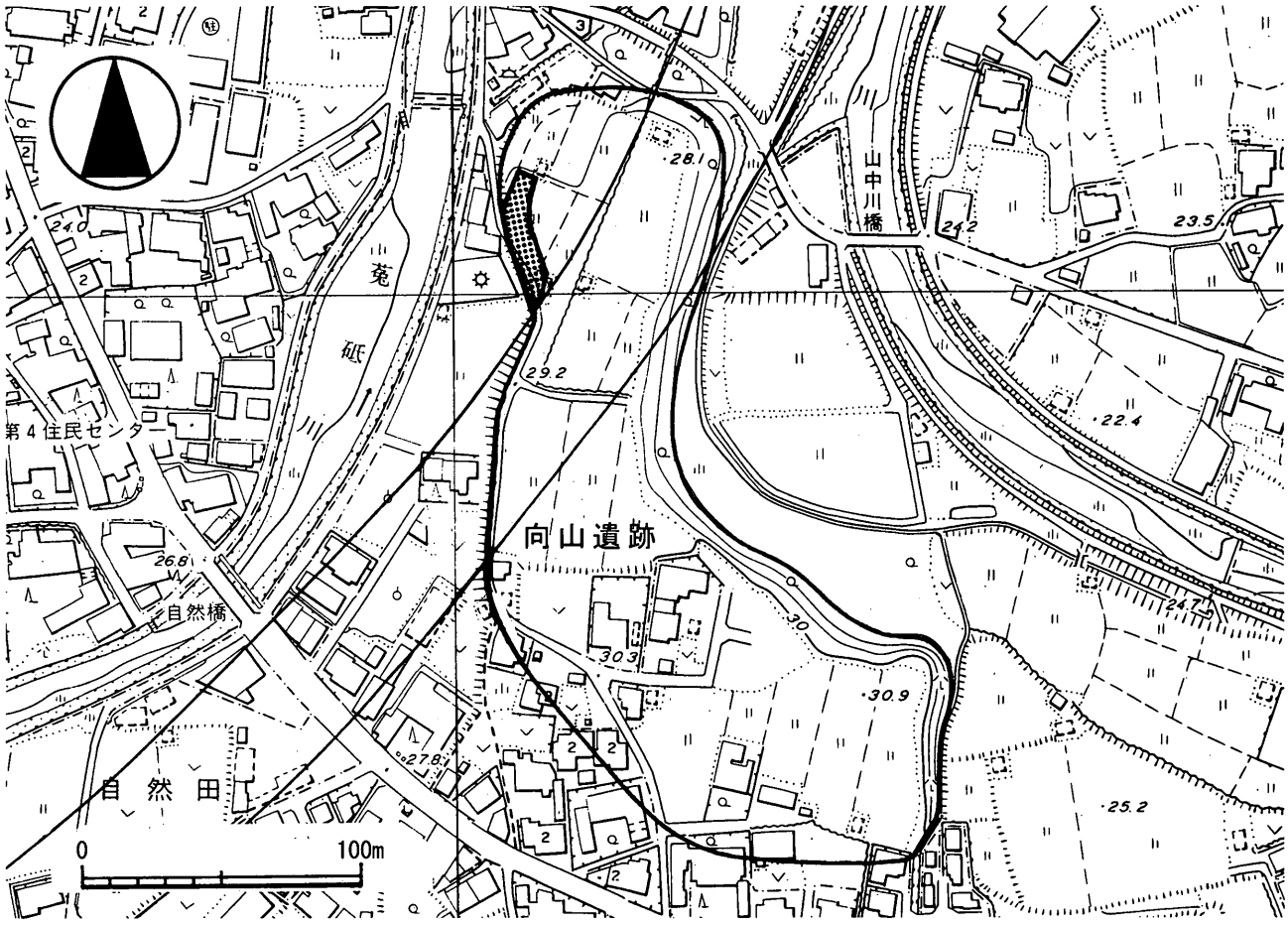
阪南町教育委員会　1982　『玉田山遺跡発掘調査報告書―大阪府泉南郡阪南町自然田所在―』「阪南町埋蔵文財報告Ⅲ」

阪南市教育委員会　1988　『阪南町埋蔵文化財分布調査概要Ⅰ』「阪南町埋蔵文化財報告Ⅵ」

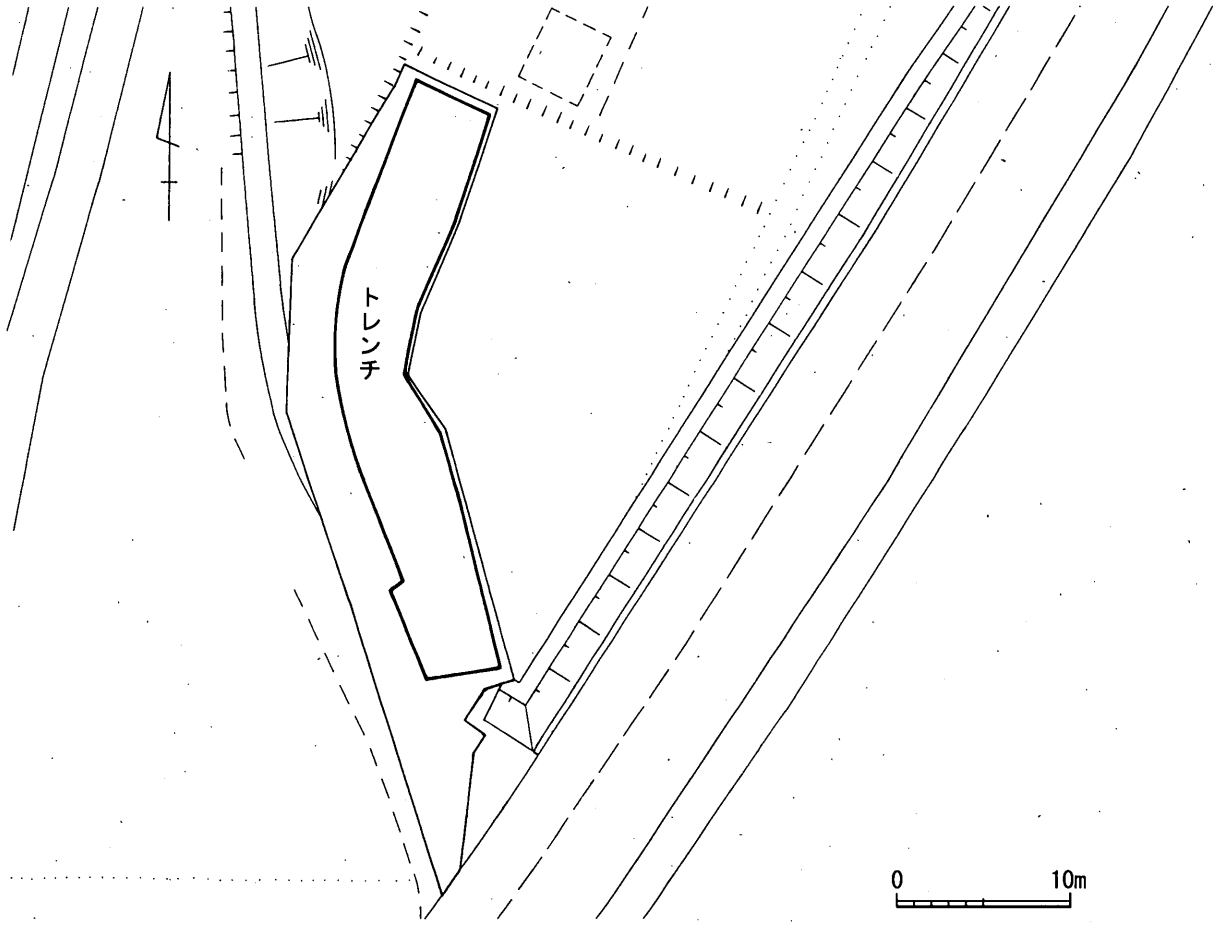
(財)大阪府文化財調査研究センター 1998 『向出遺跡』「向出遺跡現地説明会資料」

(財)大阪府文化財調査研究センター 2000 『向出遺跡 一般国道26号線(第二阪和国道)建設工事に伴う発掘調査報告書』「(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第55集」

(財)大阪府文化財調査研究センター　2002　『一般国道26号線(第二阪和国道)建設工事に伴う　向山遺跡発掘調査報告書-大阪府阪南市自然田所在-』「(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第72集」



第３図　調査区位置図



第４図　トレンチ位置図

第３章　調査の成果

第１節　基本層序(第５・６図)

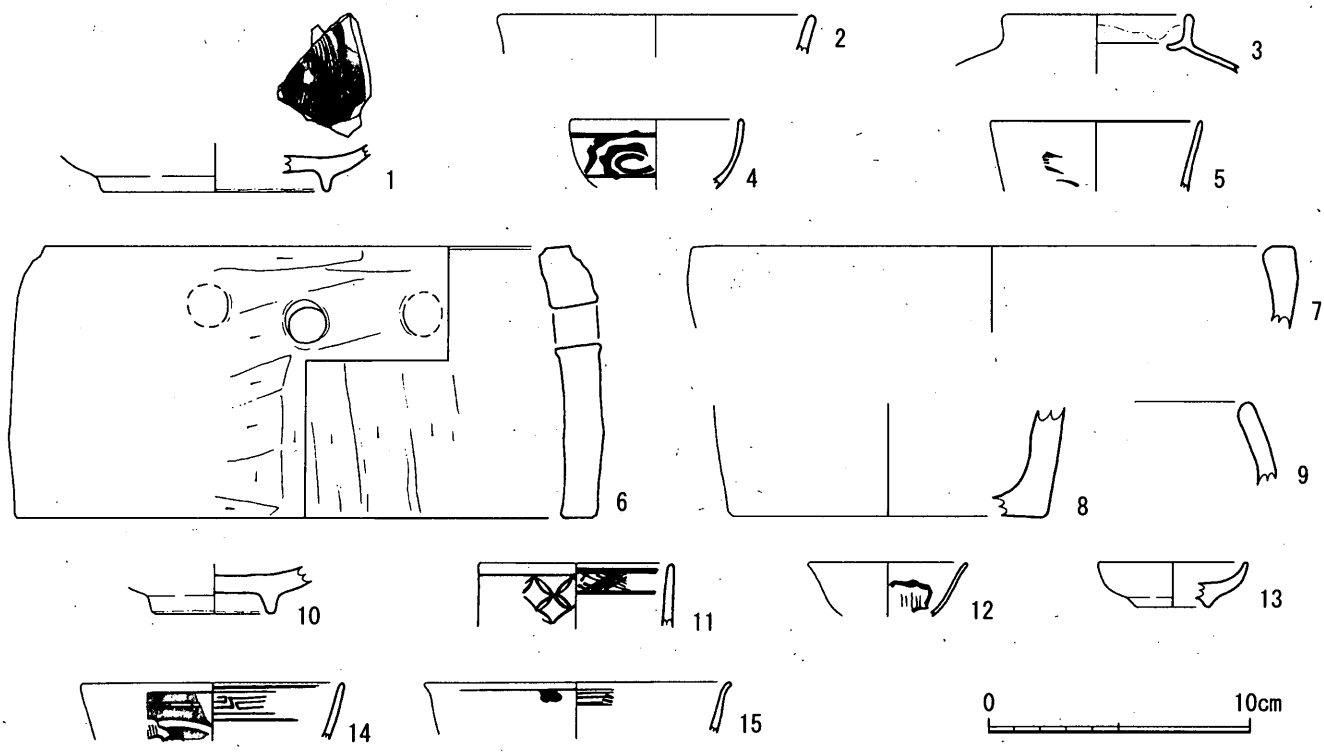
調査区は向山遺跡の北西端部に位置する。

地山は南半部ではＴ．Ｐ．＋27.6m前後で、北部に向かうほど低くなっており、最も低い地点はＴ．Ｐ．＋27.1m前後を測る。

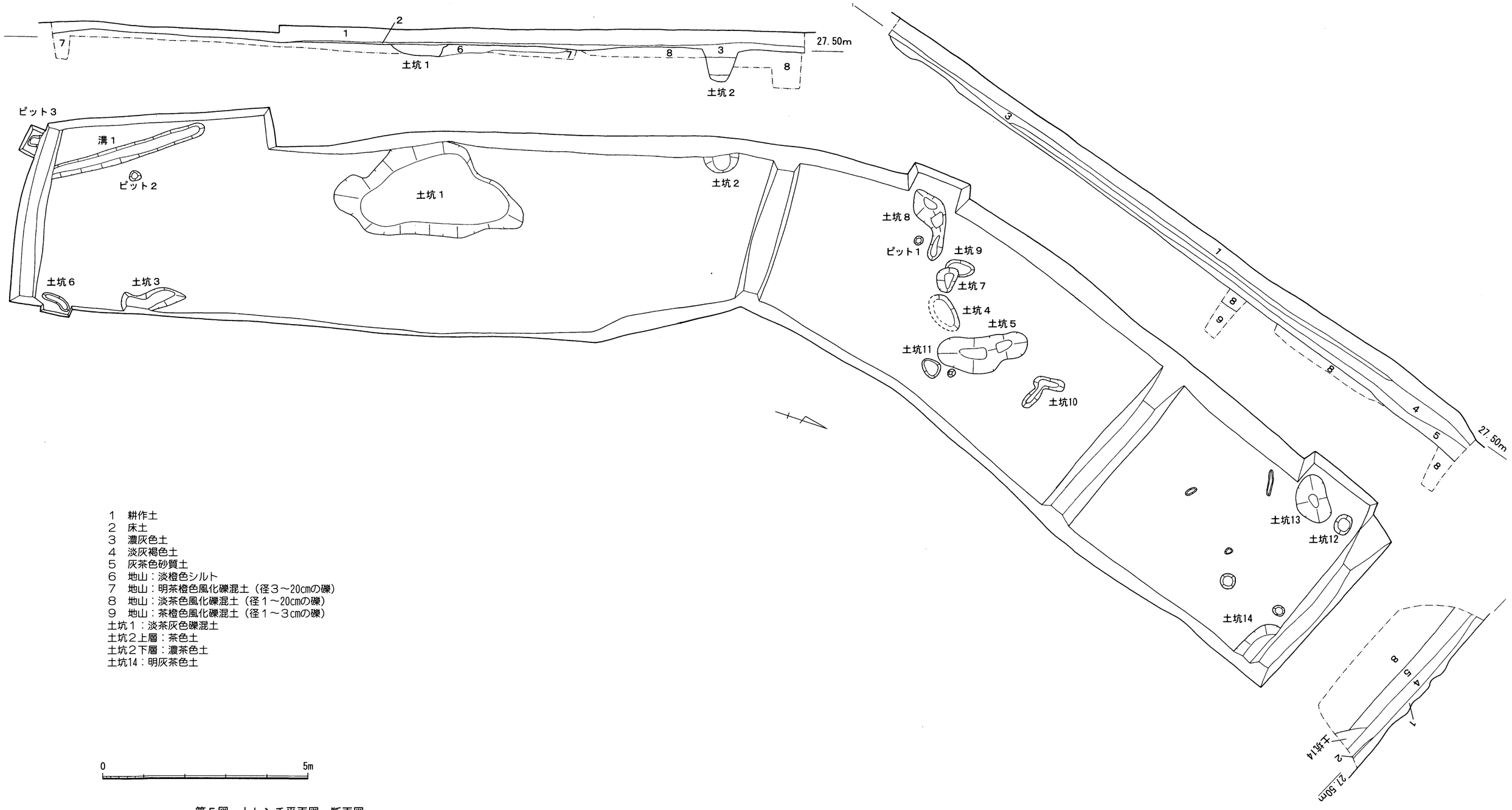
基本層序は第１層耕作土、第２層床土、第３層濃灰色土、第４層淡灰褐色土、第５層灰茶色砂質土である。地山は淡橙色シルト、明茶橙色風化礫混土、淡茶色風化礫混土、茶橙色風化礫混土などである。

遺物は第１層から須恵器、磁器、近世瓦など、第２～５層からサヌカイト、土師器、須恵器、土師質土器、瓦器、陶器、磁器、近世瓦、スサ入焼土魂などが出土した。第２層以下はすべて近世期の包含層である。

１は磁器皿で第１層から出土した。２は須恵器坏身、３は陶器の急須と思われ、４・５は磁器碗で、第２層から出土した。６は瓦質炉台、７～９は土師質土器で７・８は火鉢、９は炮烙、10は陶器椀、11～12は磁器碗、13は磁器紅皿で、第３層から出土した。
14･15は磁器碗で、第４層から出土した。



第６図　包含層出土遺物



1　耕作土
2　床土
3　濃灰色土
4　淡灰褐色土
5　灰茶色砂質土
6　地山：淡橙色シルト
7　地山：明茶橙色風化礫混土（径３～20cmの礫）
8　地山：淡茶色風化礫混土（径１～20cmの礫）
9　地山：茶橙色風化礫混土（径１～３cmの礫）
土坑１：淡茶灰色礫混土
土坑２上層：茶色土
土坑２下層：濃茶色土
土坑14：明灰茶色土

第５図　トレンチ平面図・断面図

第２節　遺構・遺物

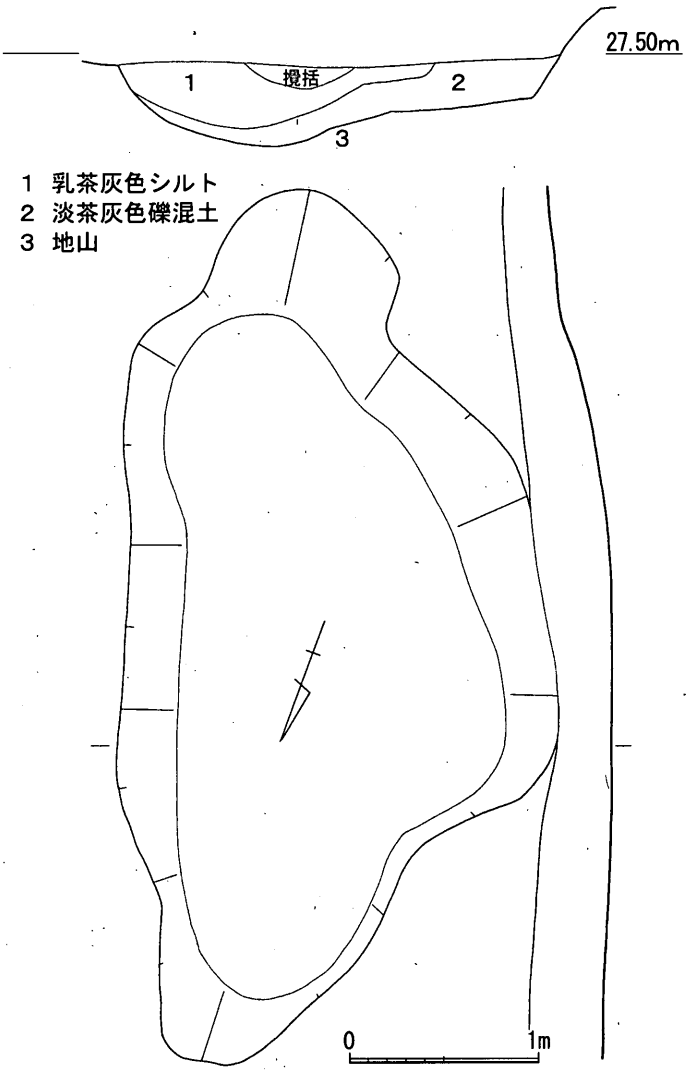
遺構は土坑を14、溝を１、ピットを９検出した。土坑14以外は全て地山上で検出した。

土坑１（第５・７・８図）

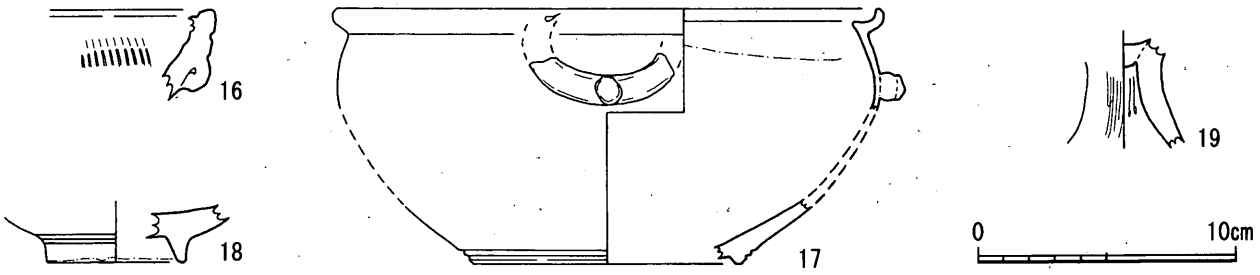
調査区で検出した土坑の中で一番大きいものである。東西2.10m、南北4.60mの楕円形土坑で、深さ0.43mを測る。埋土は上層乳淡茶灰色シルト、下層淡茶灰色礫混土で、一部攪乱で削平されていた。近世期の土坑である。

遺物は弥生土器、土師質土器、陶器、磁器、近世瓦、スサ入焼土魂が出土した。

16は堺擂鉢、17は陶器の鍋、18は磁器（波佐見焼）碗で上層から、19は弥生土器の高坏脚部で、下層から出土した。



第７図　土坑１　平面図・断面図



第８図　土坑１　出土遺物

土坑２（第５・９図）

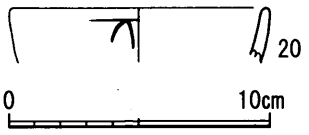
東西0.4m以上、南北0.９m、深さ0.8mを測る。埋土は上層から濃灰色土、茶色土、濃茶色土である。

遺物は濃灰色土から20の磁器（波佐見焼）碗１点が出土したのみである。

土坑３（第５図）

東西0.4m、南北1.60m、深さ0.08mを測る。

埋土は明橙茶色土で、縄文土器が出土した。

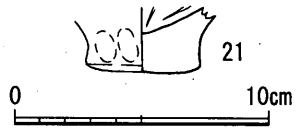


第９図　土坑２　出土遺物

土坑４（第５・10図）

東西1.00m、南北0.30mの楕円形の弥生時代の土坑である。深さ0.17mを測り、埋土は暗茶黒色土で遺物は弥生土器が出土した。

21は弥生時代後期の甕底部である。

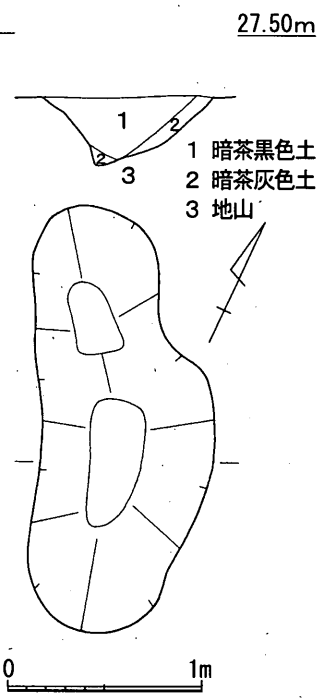


第10図　土坑４　出土遺物

土坑５（第５・11・12図）

東西0.90m、南北2.20mの楕円形の土坑である。深さ0.46mを測り、埋土は上層は暗茶黒色土、下層は暗茶灰色土である。遺物は弥生土器が出土した。

22は弥生土器の長頸壷の頸部で、外面にヘラ描きのようなものが見られる。



第11図　土坑５　平面図・断面図

土坑６（第５図）

0.20m、南北0.74m、深さ0.06mを測る。埋土は濃灰茶色土で、遺物は出土しなかったため、時代は不明である。

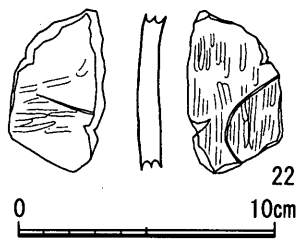
土坑７（第５・13図）

東西0.62m、南北0.46m、深さ0.10mを測る。埋土は土坑４や５、10などと同じ弥生時代の遺物が出土している暗茶黒色土である。遺物は弥生土器が出土した。

土坑８（第５・14図）

東西1.50m、南北1.00m、深さ0.13mの不定形土坑である。

遺物は出土せず、埋土が後述の土坑９と同じ淡褐色土であることから、弥生時代後期もしくはそれよりも古い時代である。

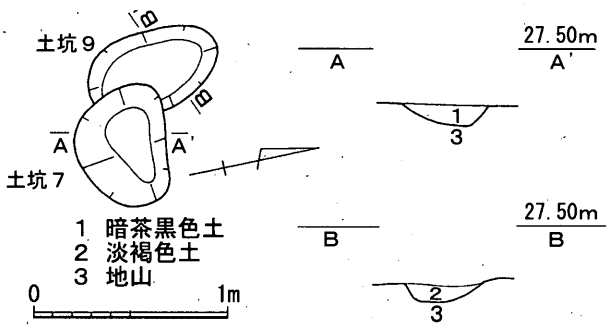


第12図　土坑５　出土遺物

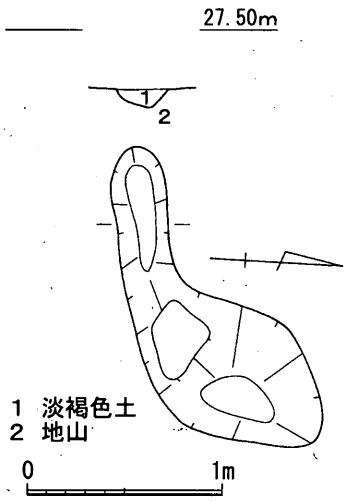
土坑９（第５・13図）

東西0.42m、南北0.70m、深さ0.09mを測る。埋土は淡褐色土である。

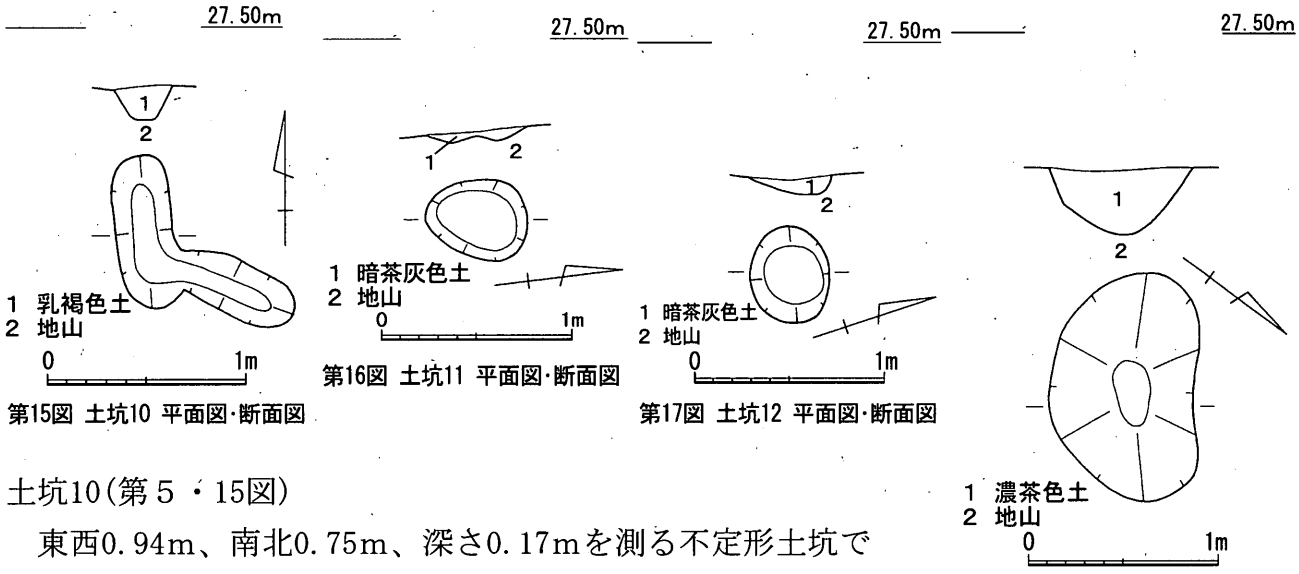
遺物は出土しなかったが、土坑７に切られていることから、弥生時代後期もしくはそれよりも古い時代である。



第13図　土坑７・土坑９　平面図・断面図



第14図　土坑８　平面図・断面図



第15図 土坑10 平面図・断面図

第16図 土坑11 平面図・断面図

第17図 土坑12 平面図・断面図

第18図 土坑13 平面図・断面図

土坑10(第５・15図)

東西0.94m、南北0.75m、深さ0.17mを測る不定形土坑である。埋土は乳褐色土で遺物は出土しなかった。

土坑11(第５・16図)

0.40m、南北0.50mの円形土坑で、深さ0.11mを測る。遺物は出土しなかったが、埋土が暗茶灰色土であったため、弥生時代と思われる。

土坑12(第５・17図)

直径0.50mの円形土坑で、深さ0.08mを測る。遺物は出土しなかったが、埋土が後述の土坑14と同じ明灰茶色土のため、近世期の遺構と思われる。

土坑13(第５・18図)

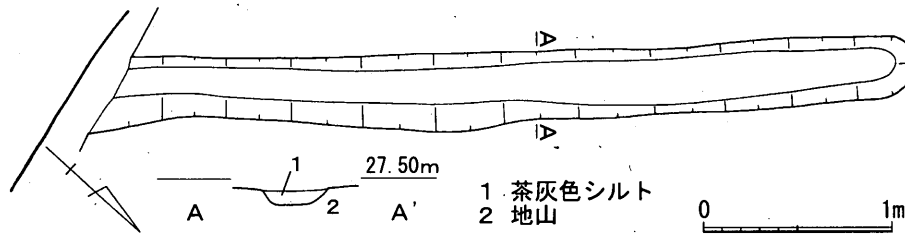
東西0.76m、南北1.20m、深さ0.37mを測る。埋土は濃茶色土で、遺物は出土しなかった。

土坑14(第５図)

東西1.00m以上、南北0.90m以上、深さ0.50m以上を測る。埋土は明灰茶色土である。遺物は土師器と須恵器を出土したが、第５層上面から切り込んでることから近世期の遺構と思われる。

溝１(第５・１９図)

長さ3.80m以上、幅0.30m、深さ0.09mを測る。埋土は茶灰色シルトで遺物は出土しなかった。

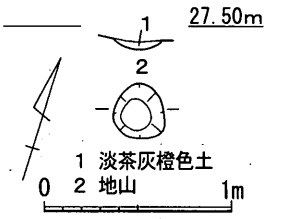


第19図 溝１ 平面図・断面図

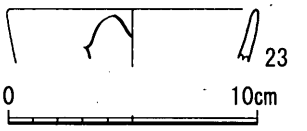
ピット群(第５・20・21図)

南部で２、北部で７のピットを検出した。南部のピット２は直径0.24mで、深さ0.05m、埋土は淡茶灰橙色土である。遺物は波佐見焼茶碗を出土した。ピット３は直径0.25mで、深さ0.06mを測り、埋土は溝１と同じ茶灰色シルトである。遺物は出土しなかった。北部のピットの埋土はすべて暗茶黒色土である。埋土から弥生時代後期と思われるが、遺物は出土していない。

23はピット２から出土した、磁器（波佐見）碗である。



第20図 ピット2 平面図･断面図



第21図 ピット２ 出土遺物

第４章　まとめ

先述した(財)大阪府埋蔵文化財調査研究センターの調査では、３面の遺構面が確認され、弥生時代から江戸時代まで概ね６時期の変遷があった。弥生時代後期から古墳時代中期にかけての竪穴住居が検出され、集落を形成していたようである。古墳時代後期の小石室も１基検出した。平安時代から中世期前半にかけては掘立柱の建物群が形成されていたものの、中世後半以降は耕作地となったようである。

今回の調査区では、遺構としては縄文時代、弥生時代後期、近世期に分けられる。包含層は４層存在するが、すべて近世期のものであった。特に南端部は包含層すら存在しないことから、大幅に削平を受けているものと考えられる。

中世期と思われる遺物は若干出土したものの、遺構は全く検出されなかった。

今回の調査では、遺跡中央部で大規模に行われた(財)大阪府埋蔵文化財調査研究センターの調査区では出土しなかった、縄文土器を出土する土坑を一ヶ所であるが検出したことが特筆される。

遺物観察表

挿図番号 遺物番号	出土地点 層位	種類 器種	法量 (cm)	手法	胎土	焼成	色調	備考
1	耕作土	磁器 皿	器高 1.8 底径 8.8	外面 施釉 畳付け露胎 内面 施釉 染付け	緻密	良好	釉 青味白色 染 藍色 断 白色	
2	床土	須恵器 坏身	口径 12.0 器高 1.5	外面 横ナデ 内面 〃	やや粗	良好	外 灰白色 内 〃 断 〃	
3	床土	陶器 急須	口径 7.0 器高 2.2	外面 施釉 内面 口縁部 施釉 体部 露胎	密	良好	釉 緑灰色 露 茶色 断 淡灰色	
4	床土	磁器 碗	口径 6.6 器高 2.6	外面 施釉 染付け 内面 施釉	緻密	硬く良好	釉 灰味白色 染 淡藍色 断 白色	
5	床土	磁器 碗	口径 8.0 器高 2.7	外内面共 施釉 口縁部ロサビ 外面 染付け	緻密	硬く良好	釉 白色 染 淡藍色 断 白色	
6	淡灰褐色土	瓦質 炉台	口径 20.2 器高 10.4 底径 22.4	外内面共 ヘラ削り	やや粗	良好	外 黒色 内 〃 断 淡灰茶色	穿孔3以上
7	淡灰褐色土	土師質 火鉢	口径 21.6 器高 3.2	外内面共 横ナデ	密（砂粒含む）	良好	外 淡橙褐色 内 〃 断 〃	外面煤付着
8	淡灰褐色土	土師質 火鉢	器高 4.2 底径 12.4	外面 横ナデ 底部ハナレ砂付着 内面 横ナデ	密（細砂粒含む）	良好	外 淡橙褐色 内 〃 断 橙褐色	
9	淡灰褐色土	土師質 炮烙	口径 — 器高 3.2	外内面共 横ナデ	密（細砂粒含む）	良好	外 淡橙色 内 〃 断 〃	外面煤付着
10	淡灰褐色土	陶器 埦	器高 1.8 底径 4.8	外面 施釉 畳付け露胎 内面 施釉 見込み蛇ノ目釉ハギ、砂付着	密	良好	釉 淡灰色 断 淡茶灰色	
11	淡灰褐色土	磁器 碗	口径 7.5 器高 2.4	外内面共 施釉 染付け	緻密	硬く良好	釉 灰味白色 染 灰藍色 断 白色	
12	淡灰褐色土	磁器 碗	口径 6.1 器高 2.05	外面 施釉 内面 施釉 染付け	緻密	硬く良好	釉 白色 染 コバルト青色 断 白色	
13	淡灰褐色土	磁器 紅皿	口径 5.6 器高 1.7 底径 2.8	外内面共 施釉 畳付け 露胎、砂付着	緻密	硬く良好	釉 淡灰白色 断 白灰色	
14	灰茶色砂質土	磁器 碗	口径 10.0 器高 2.2	外内面共 施釉 染付け	緻密	硬く良好	釉 白色 染 濃コバルト藍色 断 白色	
15	灰茶色砂質土	瀬戸 碗	口径 11.6 器高 2.0	外内面共 施釉 染付け	緻密	硬く良好	白色 染 コバルト藍色 断 白色	
16	土坑1	堺 擂鉢	口径 — 器高 3.5	外面 横ナデ 沈線2条 内面 横ナデ オロシ目単位：10本	密（砂粒含む）	良好	外 茶色 内 〃 断 橙色	
17	土坑1	陶器 堝	口径 21.0 器高 9.8 底径 10.4	外面 口縁部 施釉 把手貼り付け 底部 回転ヘラ削り 露胎 内面 口縁部 露胎 体部 施釉	緻密	硬く良好	釉 緑黄褐色 露 淡茶色 断 淡灰色	
18	土坑1	波佐見 碗	器高 2.2 底径 5.4	外面 施釉 畳付け露胎 内面 施釉 見込み蛇ノ目釉ハギ	緻密	硬く良好	釉 淡灰白色 染 淡藍色 断 白灰色	
19	土坑1	弥生 高坏	基部径 2.9 器高 4.2	外面 ヘラミガキ 内面 横ナデ	密（砂粒含む）	良好	外 橙褐色 内 〃 断 橙色	
20	土坑2	波佐見 碗	口径 9.8 器高 2.1	外面 施釉 染付け一重網目文 内面 施釉	緻密	硬く良好	釉 淡灰色 染 淡灰藍色 断 白灰色	
21	土坑4	弥生 甕	器高 2.5 底径 4.6	外面 指オサエ後ナデ 内面 ヘラ削り	密（砂粒含む）	良好	外 淡橙褐色 内 〃 断 黄褐色	低部に籾圧痕
22	土坑5	弥生 長頸壺	器高 6.0 器厚 0.8	外面 ヘラミガキ 内面 〃	密（砂粒含む）	良好	外 橙褐色 内 〃 断 黄橙褐色	線刻
23	ピット2	波佐見 碗	口径 10.0 器高 2.2	外面 施釉 染付け一重網目文 内面 施釉	緻密	硬く良好	釉 淡灰色 染 灰藍色 断 白灰色	

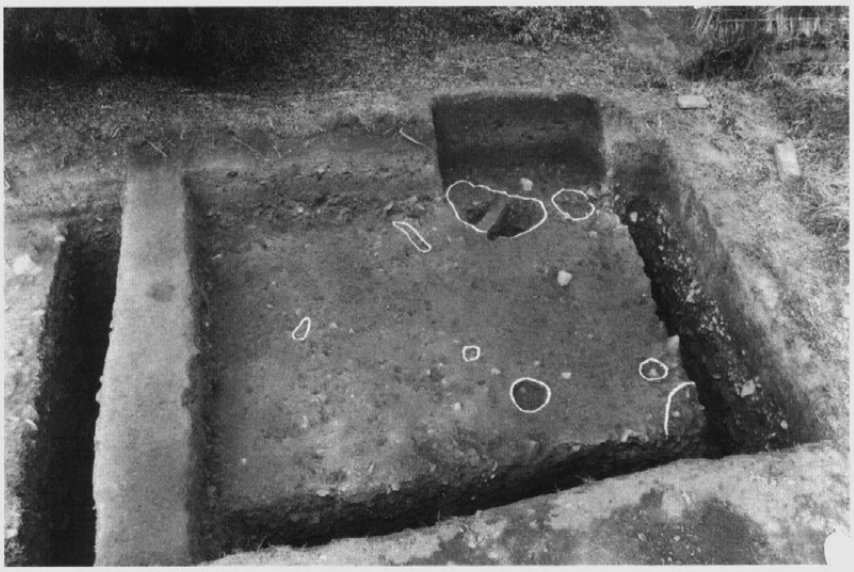
全景（東より）

全景（東より）

北側全景（東より）

南側全景（東より）

北側全景（東より）



北側全景（東より）

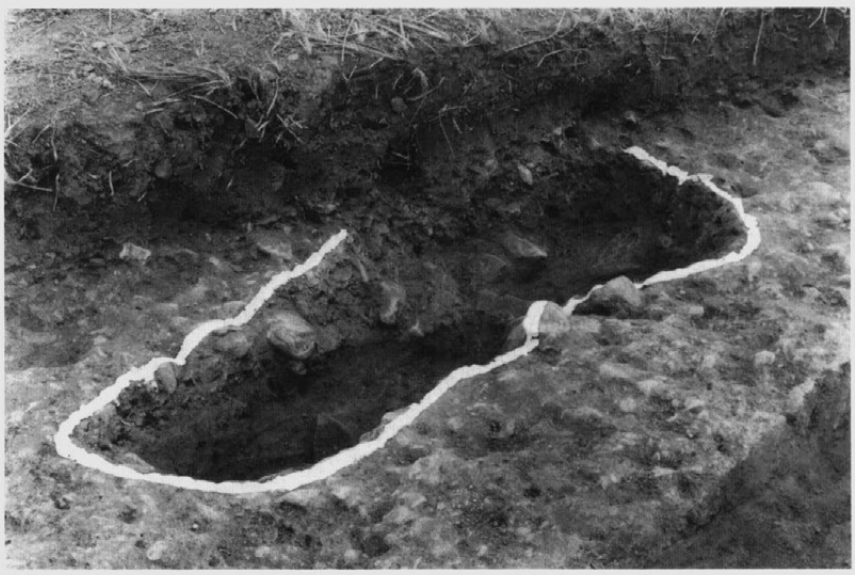
トレンチ南側断面

トレンチ北側断面

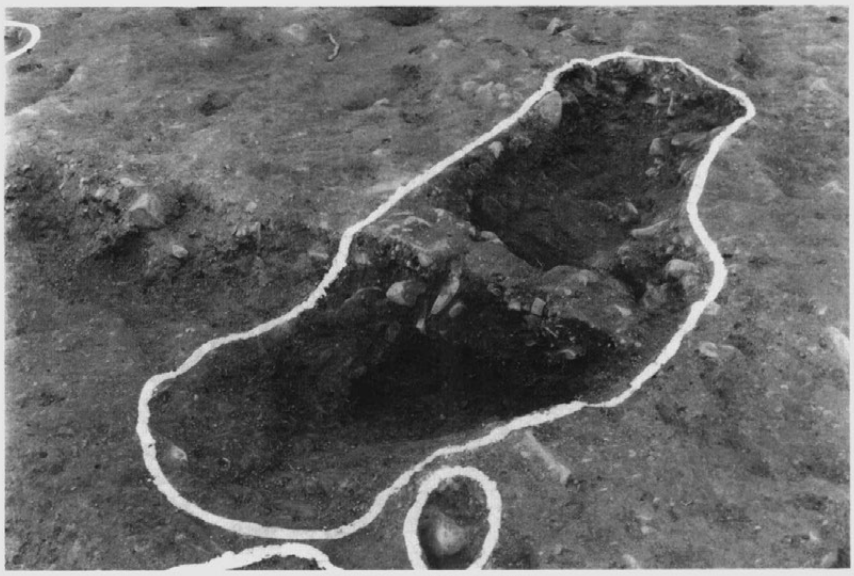
土坑１　（東より）

土坑１　南側断面

土坑２　（東より）



土坑３　（北より）



土坑５　（南より）

土坑５　北側断面

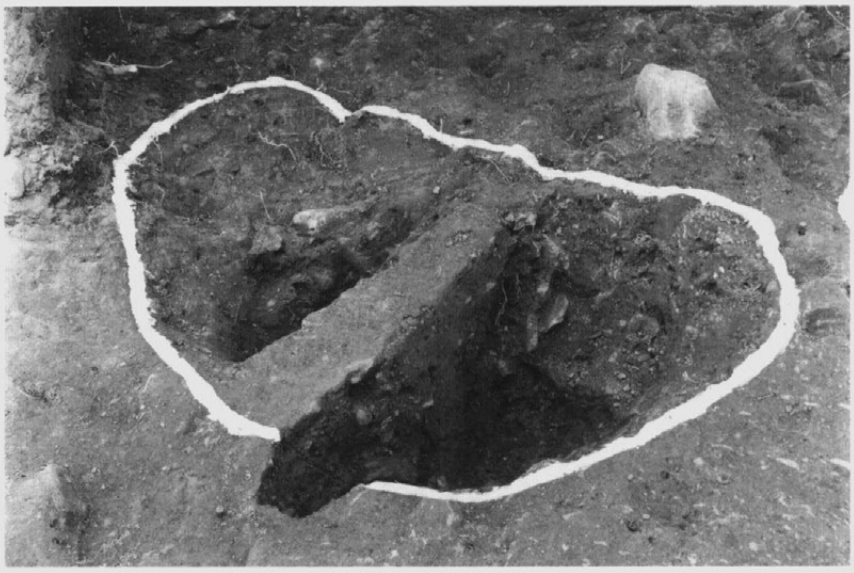
土坑７　西側断面

土坑９　南側断面

土坑10　北側断面

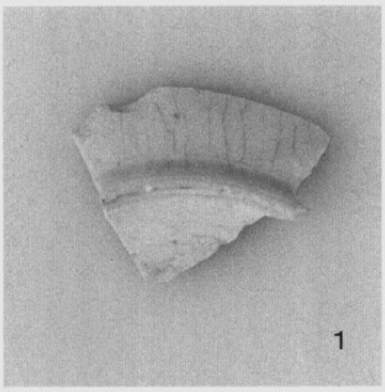
土坑11　西側断面

土坑12　南側断面

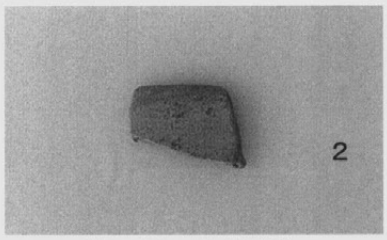


土坑13　（東より）

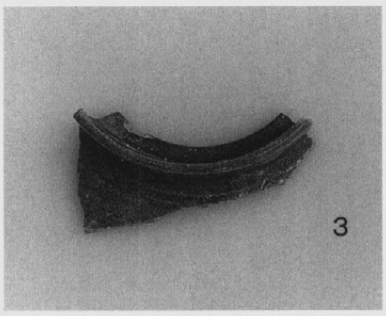
土坑13　西側断面



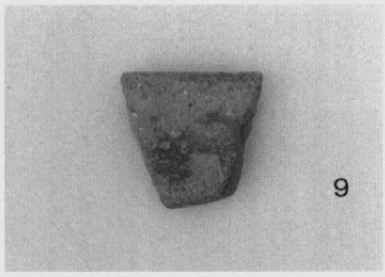
第１図　出土遺物



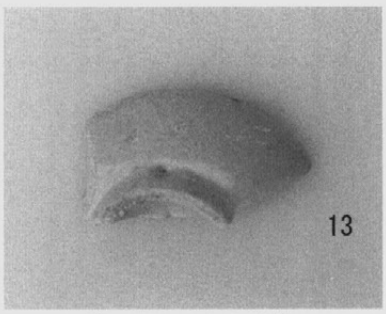
第２図　出土遺物



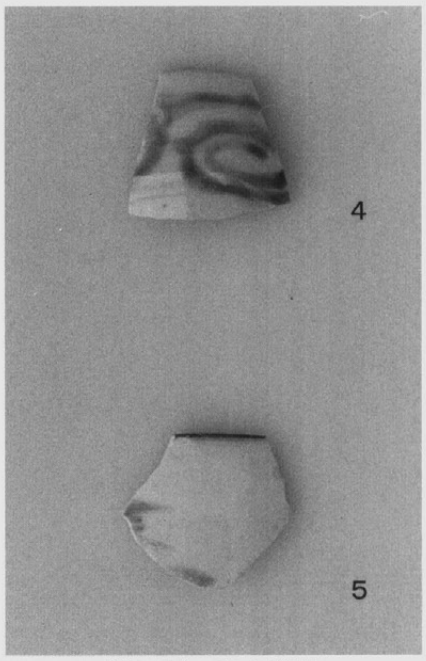
第４図　出土遺物



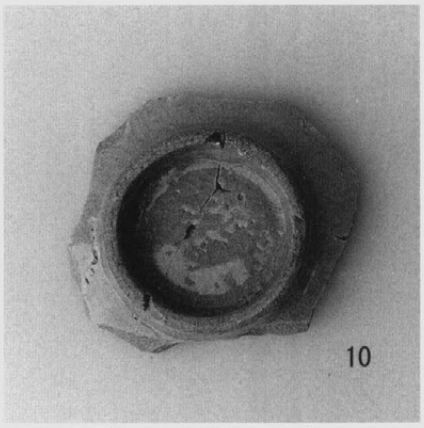
第４図　出土遺物



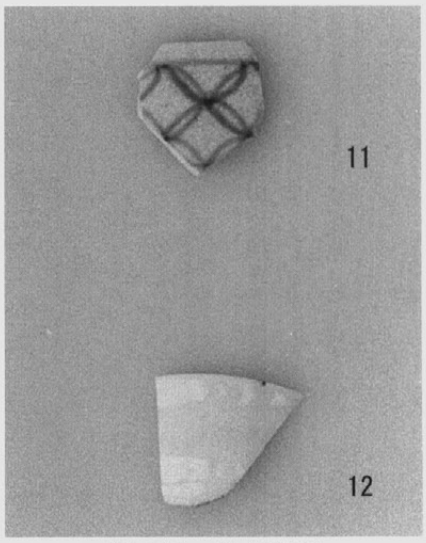
第４図　出土遺物



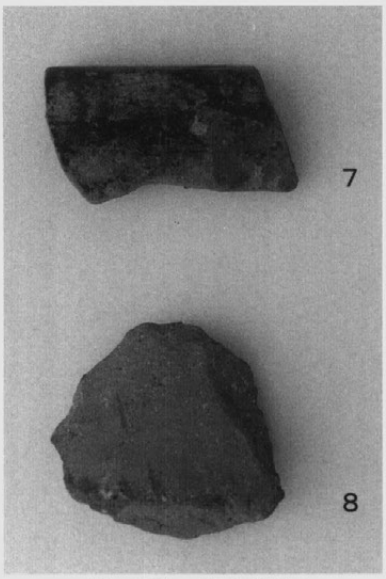
第２図　出土遺物



第２図　出土遺物

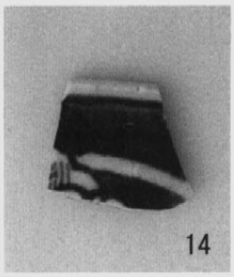


第４図　出土遺物

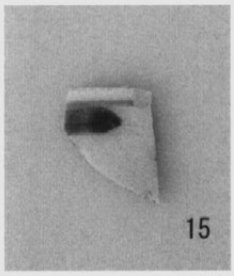


第４図　出土遺物

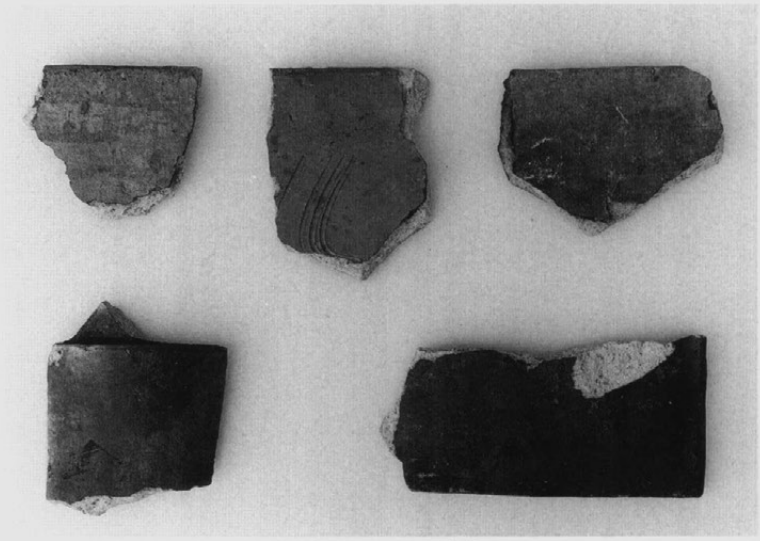
第４図　出土遺物



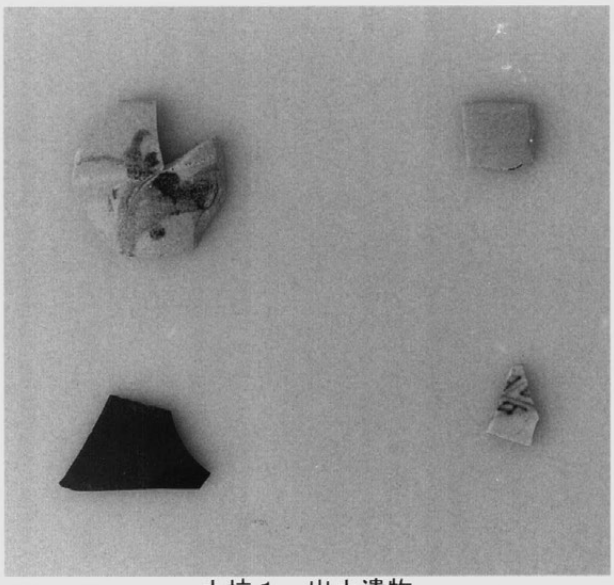
第５図　出土遺物



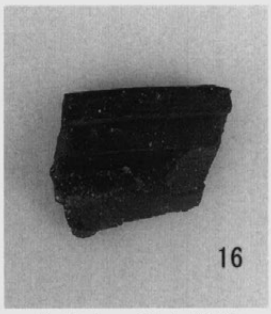
第５図　出土遺物



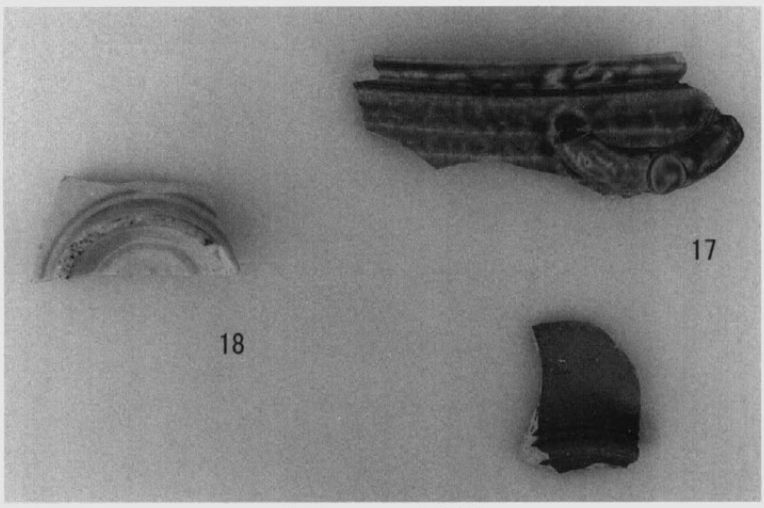
土坑１　出土遺物



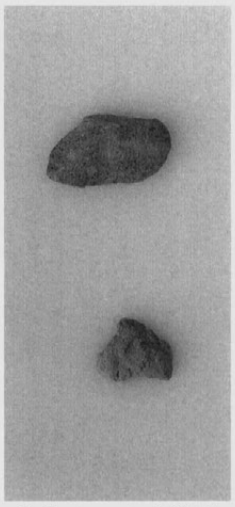
土坑１　出土遺物



土坑１　出土遺物

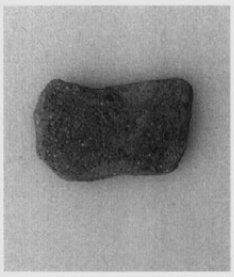


土坑１　出土遺物

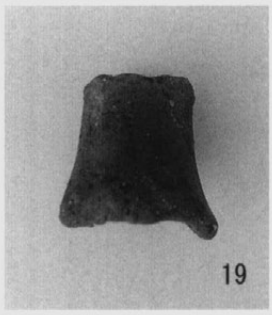


土坑１　出土遺物

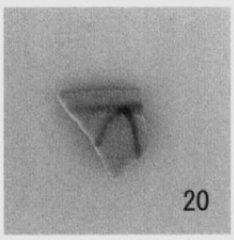
土坑１　出土遺物



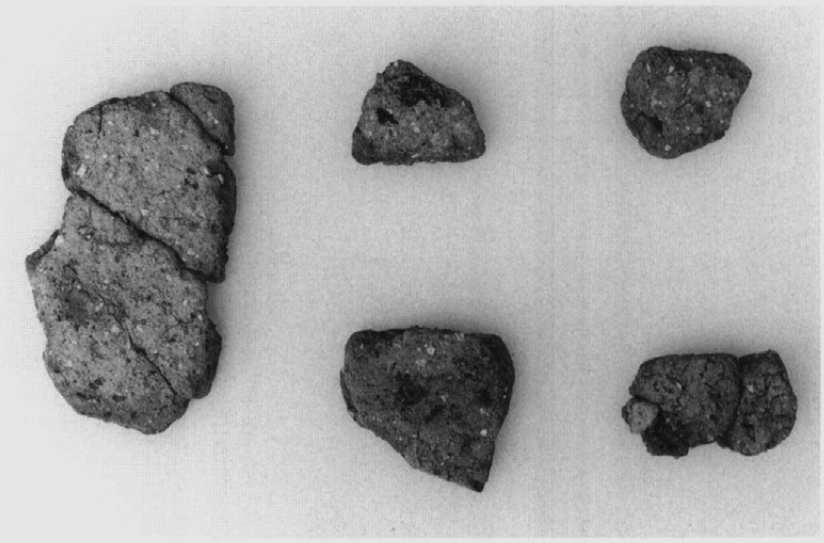
土坑１　出土遺物



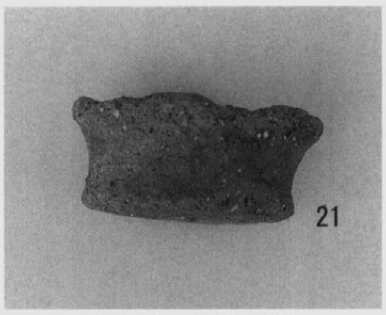
土坑１　出土遺物



土坑２　出土遺物

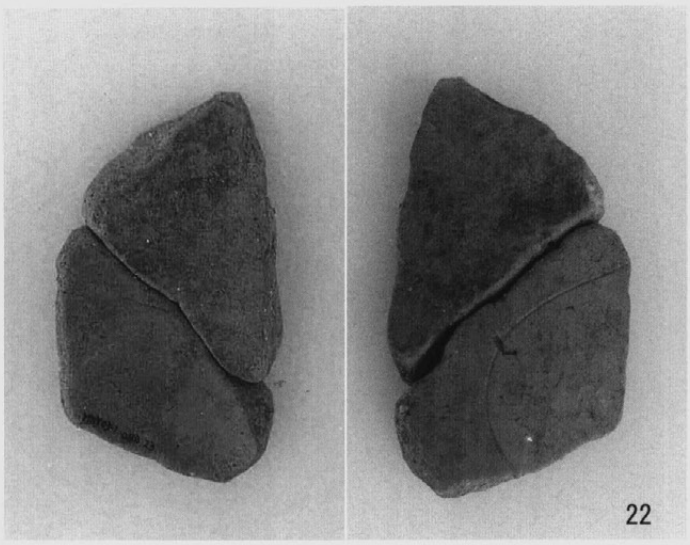


土坑３　出土遺物

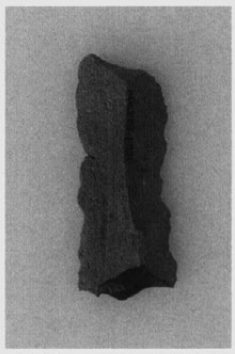


土坑４　出土遺物

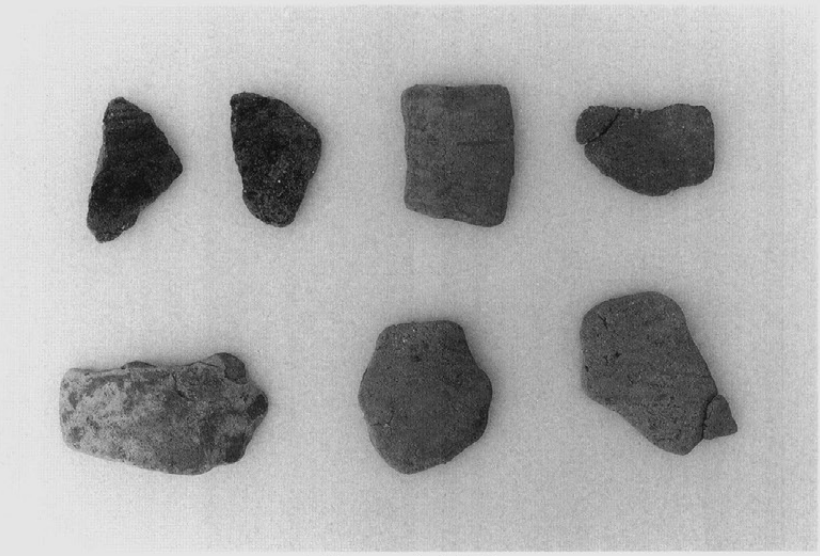
土坑４　出土遺物



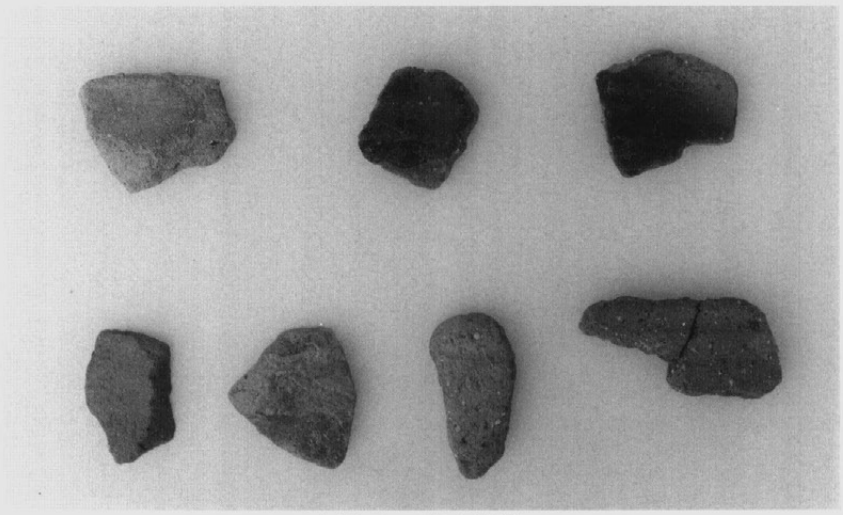
土坑５　出土遺物



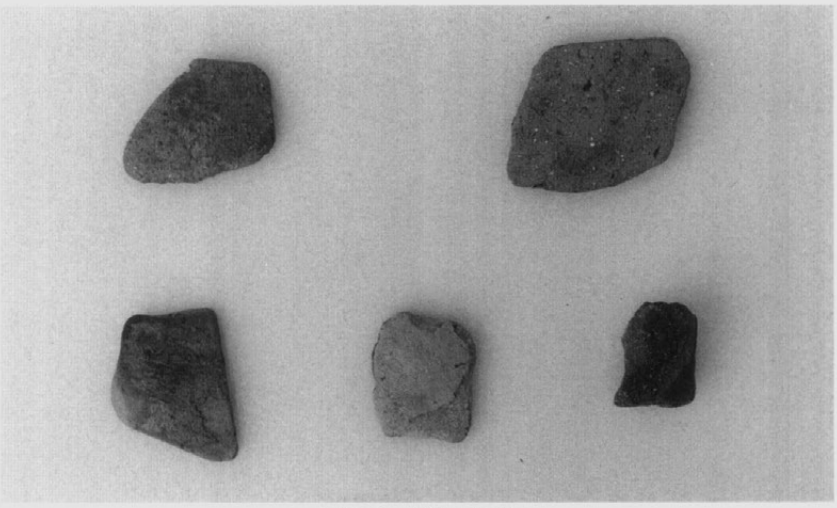
土坑５　出土遺物



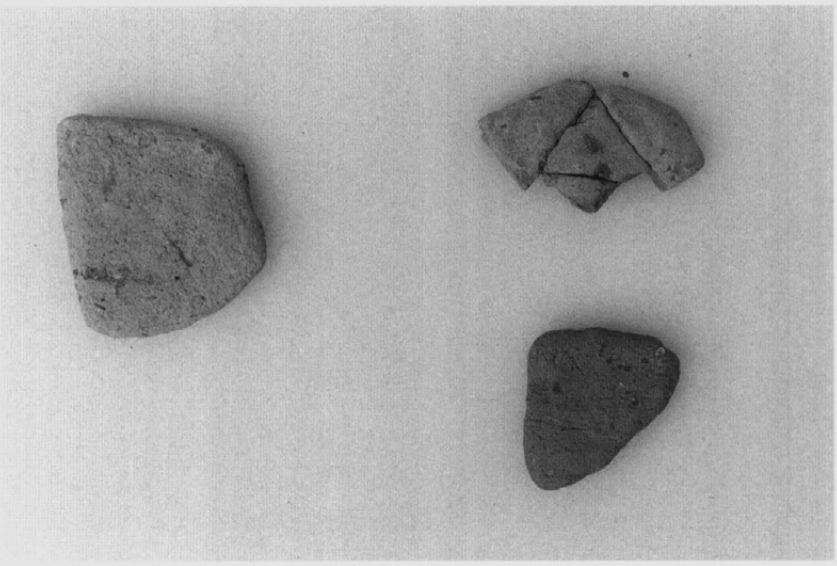
土坑５　出土遺物



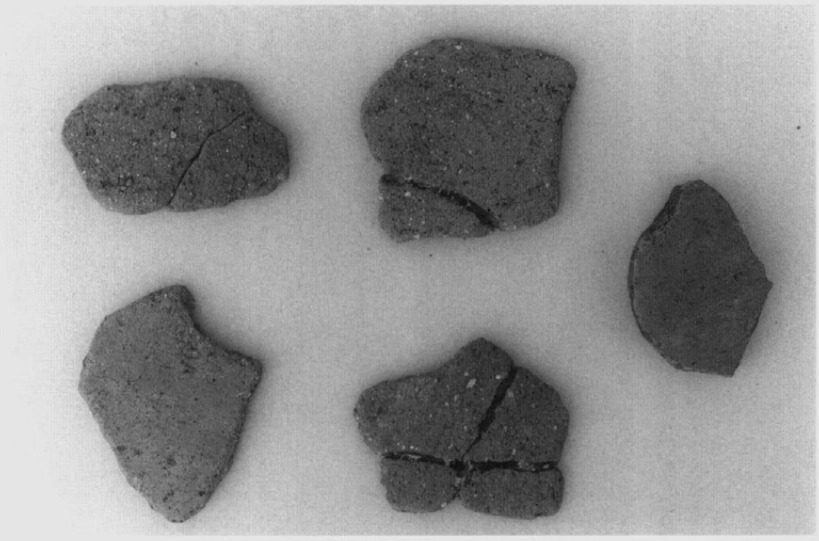
土坑５　出土遺物



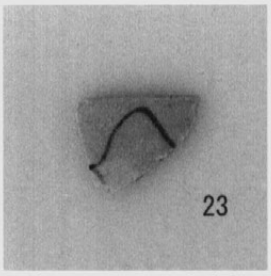
土坑５　出土遺物



土坑５　出土遺物



土坑14　出土遺物



ピット２　出土遺物

報告書抄録

ふりがな	むかいやまいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	向山遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告
シリーズ番号	３３
編著者名	田中早苗
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課
所在地	〒599-0292　大阪府阪南市尾崎町３５－１　TEL 0724-71-5678
発行年月日	2004年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
むかいやまいせき 向山遺跡	はんなんし 阪南市 じねんだ 自然田	27232	47	34° 20′ 38″	135° 52′ 29″	2004.1.19 ～3.12	１５８	道路

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
向山遺跡	散布地	縄文～近世	溝・土坑・ピット	サヌカイト・縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・瓦器・陶器・磁器など	

阪南市埋蔵文化財報告 33

向山遺跡発掘調査報告書

２００４年３月

発　行：阪南市教育委員会生涯学習部
生涯学習推進課
大阪府阪南市尾崎町35の１
印刷者：三和印刷株式会社